

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 8月 23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470205992		
法人名	有限会社 ピースフル		
事業所名	グループホーム 海老園はなみずき		
所在地	広島市佐伯区海老園一丁目7番21号 (電話) 082-924-7766		
自己評価作成日	平成29年7月13日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3470205992-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県広島市安芸区中野東4丁目11-13
訪問調査日	平成29年8月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

平成17年の開設以来、会社理念の「安心・安全・楽しむ」を元にご利用者の皆様と楽しく生活をしております。ピースフル理念として認知症等により生活支援が必要となられた方々が、「大人として」生活できるようにを目標とし、派手さはありませんが「普通」を目指し日々取り組んでいます。そのため、レクリエーションや大きな行事に重点は置かず、日々の買い物、調理、外出、趣味等お一人お一人の生活歴の中から興味のある事を探し取り組み、自然と身体が動く事を目標にしております。起きたい時に起き、寝たい時に眠り、出たい時に出る、食べたい時に食べる、遊びたい時に遊ぶ等普通の欲求が実現できるよう職員も一緒に楽しみながら毎日を送っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム海老園はなみずきは、閑静な住宅街に立地しており、家庭的な環境の下で、普通の日常生活の一日一日を楽しんでいる。職員は利用者に寄り添いながら、自分で出来る事は自分で、無理をしない範囲で、洗濯物干しや調理の手伝いをしている。最近のグループホームでは、食事を外注に出している所が多い中、利用者さんに聞きながら、毎日食べたいものを一緒に買い物に行き、職員と共に食事は、手作りしている。そんな中で、職員と利用者のコミュニケーションがうまく取れている。皆で一緒にレクをする事もあるが、多くの利用者は個別対応で興味のあるレクをしている。時には、貼り絵行事等で合同作品を作成して、リビングの壁（五月は鯉のぼり）に貼り出している。アットホームなグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「大人として普通の生活」を目標とし食材の買い物、外出、調理等地域の中に出向いて行く等利用者の方の意欲が高まるよう支援しています。また、小規模の特性を生かし、個々の時間を自分のリズムで過ごせるように取り組んでいます。	理念である「安全・安心・楽しい」をいつも利用者の心を中心におき、ケアを心掛けている。職員会議の中でも、話をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会への加入の他、地域のお祭り等への参加を出来る限り行っています。また、日々の買物には地域のお店に利用者の方と出掛けており、自然な形で地域交流を行っています。	町内会に加入しており、町内清掃、町内会議にも参加している。又、ホームの駐車場で、商店街と連携して産直市・屋台等、実施する予定を考慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	推進会議での報告や、民生委員の方と連携をとり認知症の啓発に取り組んでいます。また、不定期にはなりますが認知症サポーター養成講座にも参加させていただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回開催しています。街中の地域ということもあり積極的な地域連携等は現在もできてなく今後も推進会議等活用し地域に認められる事業所になりたいと思っています。	運営推進会議は2カ月に1回開催し、地域包括支援センター職員・認知症の会・地域推進委員・民生委員・町内会長・家族・管理者・職員・他グループホーム4施設が参加し、入居状況、利用者の近況報告と行事報告・ヒヤリハットについて・外部評価への取組状況等について報告し、話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	積極的に意見交換を行なっている訳ではありませんが提出物や、質問等ある際は電話や郵送ではなく直接伺い話をし関係を築けるよう努めています。	市担当者とは、提出書類を持参して相談して助言を得たり、情報交換をしている等、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議で、情報交換や意見交換をして、連携を図っている。又年1回、佐伯区世界アルツハイマーデー記念講演会の運営に携わっている	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議や日々の申し送り、外部研修等で職員一人一人が身体拘束について正しく理解できるように努めています。毎月、インシデント委員会で検討会も行っております。行動障害等が見られる場合もカンファレンス等で対応方法を職員で話し合っております。安全対策の為に階段前に柵を設けていますが、夜間以外は玄関の施錠は行わず、開放的な環境を提供出来る様に努めています。	身体拘束排除のためのマニュアルがある。年4回研修計画を組んでおり、職員は身体拘束について学び、正しく理解し、抑制や拘束のないケアに努めている。スピーチロックについては、気になる場合には管理者が個別に指導したり、職員同士で注意し合っている。玄関の施錠は行っておらず、利用者の動向を見守り、外出したい場合には一緒に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	インシデント委員会を設置し定期的に検討し現状の把握に努めています。同時に職員のストレスにも最善の注意を払い虐待事例に繋がらないよう声をかけストレスの軽減に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度を利用されていた方もおられ、外部研修にも不定期ながら参加できるよう配慮をしていますが、職員の入れ替わり等あり全職員周知にはまだいたらず課題が残っています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約等の際には十分に説明をさせていただきます。その際に一方的な話にならないよう意見等求めながらすすめています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご面会の際に意見交換をさせていただいたり電話等で話をしていますが明確な場を設けている訳ではないため今後検討が必要と思います。頂いた意見につきましては職員会議等で話し合うようにしています。	日頃から本人、家族の意見や要望を聞いているが、コミュニケーション不足という事もあり、それをしっかりと受け止め運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度運営会議を行ない代表者と各事業所の管理者で意見交換を行なう場を設けています。今後は個人面談の機会も設けるようにしたいと思っております。	日々の中で、何事も話しやすい関係を心掛け、スタッフの意見や不満も受け止めている。今後、アンケートを実施する予定で運営に関する職員の意見や提案を聞く予定にしている。	今後、職員の意見・要望等が代表者に伝わるように、アンケートの実施や会議の場に参加される事を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者と職員の直接的な意見交換の場は少ないと思われます。職員の給与基準等代表者と管理者で検討しています。職員内より改善等の意見が出た場合は柔軟に対応していきたいと思っております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修、勉強会等興味がある分野を各自で選び実施しています。計画的な職員のスキル向上の仕組み等を構築していく必要があると思っています。新人職員につきましては積極的に外部研修に参加して頂いております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	事業所単位で近隣他事業と人事交流や勉強会を行なっています。今後系列施設内での人事交流も取り入れていきたいと思っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に必ず事業所に来ていただくか、自宅等に出向きご本人、ご家族と話し合いを持ち、不安に思われる事、取り組みたい事を明確にし、事業所内で出来る事を一緒に検討し具体化出来るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に不安等抱えておられるご家族は多くおられるため、形式的な説明等にならないよう努め、同時にここで抱えておられる要望、不安を把握できるように心がけ話し合いを行なうように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人が思う必要なこと、ご家族が思う必要なこと、職員が思う必要なこと、には開きがある事が多いため職員が思う必要な事を押しつけるのではなくご本人、ご家族個別に話を伺いそれぞれ必要と思われる事を検討し実践できるよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	大人として生活できる環境作りを目指しています。入職時に利用者体験を行ない利用者の方の目線を理解してもらおうと同時にまず目上の人と言う意識を持つよう職員教育に努めています。ご本人の出来る事に重点を置き、生活歴等から支援方法を検討しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居をされる事により家族関係が再構築できるよう努めていく事も事業所の大切な役割と理解し、日々の活動を通し親の姿を思い出していただけるようご面会の際等生活風景をご家族に報告させていただいています。また、毎月、写真と文章で現状を報告しております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人、知人のご面会もあり、出来る限り関係が切れないよう努めています。また、買い物等馴染みの場所への外出支援も行なっています。趣味などお好きな事が行えるように支援を行っています。	ホームに友人の訪問もあり、居室でゆっくりしてもらっている。また、本人の趣味で、馴染みの古本屋や花屋に立ち寄り、馴染みの場所など途切れないよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	人間関係を中心に検討を行ない席や、アクティビティ等を行なっています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入居時からの関係作りが大切で退去後も尋ねて来ていただけるご家族もおられます。退居後も必要に応じ相談、紹介等を行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴や日々の関わりから聞き取りお行ない、カンファレンスで検討し意向等を反映できるよう努めています。	入居時のアセスメントを活用している他、日々の関わりの中での利用者の行動、表情、会話等をケース記録に記録し、思いや意向を把握するように努めている。困難な場合には、職員間で話し合っ、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に生活習慣の聞き取りを行ない、その人にあつたリズムで生活していただけるよう心がけています。起床、食事、入浴、、外出、消灯等個々で違う方もおられます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人記録やバイタルチェックを毎日記録し日々の状態把握に努めています。医療面に関しては必要に応じ医療ノートに記載し周知しやすいように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画作成時にカンファレンスを開催し検討しています。その際、問題点にはばかりに意見が偏らない様に心がけています。Dr、家族、外部専門職の出席は難しい場合が多く、検討課題ではありますが、事前に意見を聞き反映出来るよう努めています。	利用者一人ひとりの日頃の様子を個人ファイルに記録している。介護計画の見直しは6ヶ月に毎に行い、変化があった場合はその都度見直し、本人や家族の要望を聞き、職員会議で、話し合いながら、本人本位のプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の状態は記録に記入していますが見直しの際は口頭での意見交換が多いため今後記録を活用する仕組みが必要と思っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	昔からの馴染みの店に通ってみたりと状況に応じ柔軟に対応していきたいと思っていますが、日々生活していく中で気付かない事や、思い込みも出てくると思っています。事業所として常に大きな課題の一つとらえています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個々の嗜好、趣味に応じ地域のお店に買物に行く等、ご本人が自然と体が動く事は何かと日々検討しています。生活リハビリを重点に取り組んでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に医療機関を決めていく際に、今までのかかりつけ医、近郊の病院、お体の状態に合わせ往診等選んでいただけます。また、入居後も必要に応じ病院を変える事もありません。※遠方の病院の場合はご家族の協力を得ています。	入居時に利用者や家族の希望と意見を聞き、今迄のかかりつけ医と事業所の協力医療機関をかかりつけ医とするかを選んで頂いている。協力医療機関のかかりつけ医は月2回の往診がある。歯科は、希望により月1回の往診があり、その他の専門医の受診は家族の協力を得て事業所が支援している。受診後は、家族と職員が情報を共有している。緊急時は管理者が対応し、主治医と連携を図って、適切な医療が受けられるように努めている。	

グループホーム 海老園はなみずき

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療ノートを作成し訪問看護、往診、歯科等伝達等漏れがないよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は極力お見舞いに行き、状態の把握に努めています。また、退院が近くなると相談員等と話し合いの場を持ちスムーズに帰って来られるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居前に話し合いを持ち説明をしております。また、状態の変化が起こった場合もご本人、ご家族の意向を聞き、医療機関と相談していきます。その際に他機関への紹介や、事業所で看取り等行なっていかを話し合いの中で決めていきます。	契約時に指針を基に本人や家族に事業所で出来る事を説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族や主治医・看護師と相談し、移設を含めて方針を決めて共有している。今までに看取りの経験が4名ばかりあり、看取りの体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救命の講習は必要に応じ実施していますが、離職等の関係等徹底できていない面もあります。安心して生活していただけるため体制作りを再検討していきたいと思えます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防署立ち会いで消防訓練を実施しておりますが、全職員周知出来ているか等不安材料もあるため訓練等継続的に行なっていきたいと思えます。	年2回、消防署指導の下で、避難訓練を実施しており、その内1回は、夜間想定で行っている。隣の家族とは協力関係が出来ているが、今後は多くの近隣の協力を得られるようお願いに行く予定をしている。	今後、全職員に消防訓練・災害時の対応等躊躇なく、さらにスムーズに出来る様に研修・実施をされる事を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は原則敬語を使い目上の人という意識を持ってもらえるよう指導しています。また、接遇委員会を不定期で開催し振り返りを行なっています。一緒に生活をしていく期間が長くなれば、不用意な発言に繋がる可能性もあるため日々気をつけております。	年4回、接遇研修を実施している。特に職員の意識、思い言葉遣い等、業務姿勢の見直しを行い、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活リハビリの中から意欲の向上につなげていけるよう取り組み、また、日々の会話の中で指示的な言い方にならないよう、利用者ご自身に決めて頂ける様な声掛けをするように指導しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	事業所理念でもある大人としてを元に取り組んでいますが、日々無意識の中で職員都合が出てしまう事は常に想定されます。職員会議や、申し送り等で確認、振り返りを行ないながら取り組んでいます。		

グループホーム 海老園はなみずき

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日服を着替えられる際にどの服を着るか極力選んでいただいています。職員の都合で介助等しやすい服装等ならないよう心がけています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日献立を考える際に利用者の方と一緒に考え嗜好を反映できるよう心がけています。また、強制ではなく好きな方には積極的に台所に立っていただいています。	可能な限り、職員と一緒に利用者も調理の手伝い、片付けを行っている。皆で考えて、たこ焼きパーティー・手巻き寿司パーティーやバイキングにしたり、食事を楽しめるよう工夫している。食事時間は本人のペースに合わせてゆっくりと出来る様に時間にゆとりを持っている。そして、年1回、開所記念日には、家族と共に	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、形態は個々に応じて変えています。食事、水分量も毎日記録を付け体調管理に努めています。食事バランスは栄養士がいないため医師や訪問看護師の助言をもらう事はありますが、課題は残っており今後の検討材料と思っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎日の口腔ケアと必要に応じ訪問歯科に来ていただき口腔ケアに努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自尊心、羞恥心に配慮し個々の排泄パターンを把握し声かけ等支援している。	必要な方は排便、排尿パターンを把握し、排泄チェック表を作成し、誘導や見守りを行っている。出来るだけトイレでの排泄や自立に向けての支援を行っている。。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘傾向の方には食事・水分量の工夫をしたり、動いていただくよう心がけています。必要に応じDrに相談しお薬でのコントロールも行なう事があります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日午後から入浴時間を設けています。曜日の固定や回数等の制限は設けず入浴していただいています。現在、夜間入浴は行っておりませんが、希望があれば検討して行きたいと思っております。	時間や日数は決めず、希望する方には毎日入浴出来るように対応している。本人の体調や気分に配慮してシャワー浴・清拭・足浴の対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	フロアーや居室等個々の習慣、性格に合わせて休息を取られています。日中は起きている時間休む時間どちらにも偏らないよう必要に応じて声をかけさせていただく場合もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療機関からの指示やお薬手帳を参考にし必要な事は医療ノートに記載し必要に応じDr、訪問看護に相談しています。		

グループホーム 海老園はなみずき

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴を把握し、書道、裁縫、料理、外出等個人の意欲に繋がる様な事を取り入れ実践しています。集団での行事も行いますが、基本的には個々の趣味等に応じて支援させて頂いております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	遅番の職員をフリーとして配置し外出等すぐに動ける体制を作っています。集団で動くよりも個別で動く事に重点をおいています。日々の活動から近郊のお店等地域の方達の理解は得られてきていると思いますが、一緒に出かけるといった事例はまだありません。	気候の良い時には、近隣を散歩したり、スーパー・商店街に買い物に出かけたり、畑の草取り、季節の野菜を収穫している。近隣神社の初詣、造幣局への花見、縮景園のさつきを見に行ったり、外食・BookOff・カラオケ等、外出支援を行っている。	外出支援は大変頑張っていますが、事業所として個別対応を重視している為、人員配置が十分に対応出来ない事もあり、今後体制を整え対応出来るようにされる事を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	原則お金は金庫で預らせていただいておりますが、買い物時等支払いが可能な方はご自身で支払い出来るよう支援させていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望があればご家族に連絡させていただいております。盆、正月に事業所として一緒にお手紙を出す事はありますが、それ以外でもご希望があればお手紙等支援させていただきます。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	掲示物等は子供っぽい物はさけ一般家庭を意識し掲示しています。季節を感じられるよう、食事やお花等で工夫しております。ハード面に関してはご意見が出た際に検討し改善できる事はさせていただきます。	早朝、窓を開けて、光や風を入れたり、加湿器・空気清浄機等を使用したり、居心地よく過ごせるよう空調にも気を配っている。リビングには、利用者さんが、定期的に生花を生けて素敵な空間になっている。利用者一人ひとりの居場所があり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	建物のスペース的に別に場所を確保する事は困難ですが食事の席や外出を一緒にしたりと工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に極力お家の物を持って来ていただくようお願いしております。入居後も危険性の低い物は制限を設けず落ち着ける空間が出来るよう心がけています。	利用者・家族の好みに合った使い慣れた物を持って来てもらっている。ベッド・テレビ・仏壇・筆筒・鏡台、家族写真等、居心地よく暮らせるよう配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	日常の中で色々提案し、自然と役割が出来上がっていくよう支援しています。消極的な方にも一緒に行なう事によって興味等ある事を見つけて行っています。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
		○	③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
		○	③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム海老園はなみずき

作成日 平成 29年 8月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	地域との関わりが少なく、定期的な交流の場もない	地域住人との関係を深め、認知症の啓発も勧める	認知症カフェの開催。	半年
2	35	全職員のマニュアルの周知徹底が出来ていない	災害時に全職員が柔軟な対応ができる	年2回の消防訓練以外にも、新人職員研修での訓練実施、マニュアルの見直しや改善を定期的に行う。近隣住人へ緊急時の協力体制を作る。	1年
3	11	現場職員の声は代表者になかなか伝わっていない	現場職員の声を代表者が把握し、運営に反映することができる	定期的に、現場職員へアンケートを実施し、代表者へ提出、返答をもらう機会をつくる	1年
4	49	職員不足や、職員の理解不足により、外出支援が減っている	利用者のニーズに合わせて、その都度外出することができる体制をつくる	十分な職員の確保。利用者本位でのケアの仕方を研修等で理解してもらう	半年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。